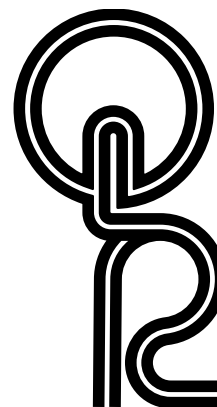


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 15 No.1, 2008



「学会設立50周年記念国際シンポジウムの招待講演」2007年11月に(独)産業技術総合研究所を会場にして行なわれた国際シンポジウムには、海外15カ国からの35名を含めて143名が登録参加した。写真は、講演のひとつ。 (上段左から、ドイツのMargot BÖSE教授、中国のJiaqi LIU教授、韓国のYong Ahn PARK教授、下段左から、台湾のYue-Gau CHEN教授、オランダのThijs van KOLFSCHOTEN教授、ニュージーランドのDavid J. LOWE教授 (宍倉正展撮影))

Vol. 15 No. 1

February 1, 2008

2008年大会案内 2	幹事会議事録 6
地球惑星科学連合大会案内 2	堆積学会からのお知らせ 7
シンポジウム報告 5	会員消息 7
AsQUA 設立案内 5	書籍案内 8

日本第四紀学会 2008 年大会案内 (第 1 報)

日本第四紀学会 2008 年大会が、下記の日程で実施される予定ですのでお知らせします。その詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

開催期間：2008 年 8 月 22 日 (金) ~ 8 月 24 日 (日)

開催場所：東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館小柴ホール (東京都文京区本郷 7-3-1)

日程：

8 月 22 日 一般研究発表 (口頭及びポスター)・評議員会

8 月 23 日 一般研究発表 (口頭及びポスター)・総会・懇親会

8 月 24 日 シンポジウム

8 月 25 ~ 26 日 巡検「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動」

なお、シンポジウムは全て指名講演となっています。このほか一般市民を対象とした普及講演会「極限のフィールドワーク：南極観測からわかる地球環境変動の過去と未来 (仮題)」(場所・日時は未定)を企画中です。

日本地球惑星科学連合 2008 年大会のお知らせ

日本地球惑星科学連合 2008 年大会が下記のとおり開催されます。第四紀学とその関連セッションに会員多数の参加と発表を期待します。以下は、日本地球惑星科学連合メールニュース臨時号 No.7 (2007 年 12 月 20 日) および大会ホームページ (<http://www.jpogu.org/meeting/>) より編集した大会のお知らせです。

§ 1 2008 年大会の概要

会期：2008 年 5 月 25 日 (日) ~ 30 日 (金)
(6 日間)

会場：幕張メッセ国際会議場

各種受付開始日・締切日

予稿集原稿投稿

2008/1/10 (木) より受付開始

~ 早期締切 2/1 (金) 17:00

~ 最終締切 2/7 (木) 12:00

予稿集原稿投稿の変更・取消については大会ホームページをご覧ください。

事前参加登録

2008/1/10(木) ~ 4/11 (金) 12:00

各種料金：

予稿集原稿投稿

早期投稿：1,500 円

最終投稿：3,000 円

図掲載 (アップロード)：500 円

投稿料金は、新規投稿を終えた時点で課金されます。その後内容を変更されても料金は変わりません。図の掲載は、希望者のみ、投稿切時点の選択肢で確定され、新規投稿料に加算され

ます(図の掲載はアップロードのみの受付になります)。

< 事前参加登録 >

全日程 (一般)：13,000 円

全日程 (小中高教員・学生)：6,500 円

24 時間 (一般)：7,000 円

24 時間 (小中高教員・学生)：3,000 円

事前参加登録の変更・取消については大会ホームページをご覧ください。

< 当日参加登録 >

全日程 (一般)：15,000 円

全日程 (小中高教員・学生)：8,000 円

24 時間 (一般)：8,000 円

24 時間 (小中高教員・学生)：5,000 円

各料金の支払方法 (個人・公費) 等については 1 月 7 日現在不明ですが、例年どおり、オンラインシステムによるクレジットカードでの支払いが中心と思われます。詳細は大会ホームページをご覧ください。

§ 2 開催セッションのご案内

2008 年連合大会で設定されているセッションは、レギュラーセッション、スペシャルセッション、ユニオンセッション、一般公開プログラム、国際セッションからな

ります。これらの一覧と詳細内容は、<http://earth.jtbcom.co.jp/session/session.html>で見ることができます。昨年度まで第四紀学会として提案した第四紀学関連のセッションは、今年度も引き続いてレギュラーセッションとして設定されています。それらは、『第四紀』、『沖積層研究の新展開』(以上、第四紀学セッション)、『活断層と古地震』(地震学セッション)です。また、その他にも数多くの第四紀学関連のセッションがあります。ふるってご参加ください。

開催セッション一覧

アンダーラインは、国際ナショナル・セッションです。このセッションでは全ての口頭発表を英語で行ないます。外国人研究者が参加しやすくすることで、日本の地球惑星科学の研究活動を世界に周知し、国際交流を促すことを目的としています。

A 一般公開プログラム

- ・高校生によるポスター発表
- ・地球・惑星科学トップセミナー
- ・地球惑星科学の教育とアウトリーチ
- ・地球惑星科学の明日を考える - 男女共同参画の視点から -
- ・キッチン地球科学

U ユニオンセッション

- ・探査機「かくや」が拓く新しい地球惑星科学
- ・地球環境問題と地球惑星科学が果たす役割
- ・国際地学オリンピック・国際地理オリンピック
- ・「ちきゅう」が明らかにする南海トラフ地震発生帯のメカニズム

レギュラーセッションおよびスペシャルセッション

B 地球生命科学セッション

- ・生命 - 水 - 鉱物相互作用
- ・地球生命史
- ・アストロバイオロジー: 宇宙における生命起源・進化・分布と未来
- ・化学合成生態系の進化をめぐる

C 地球化学セッション

- ・固体地球化学・惑星化学
- ・地球化学手法による顕生代のグローバル環境変動解析
- ・非質量依存同位体効果: 新しい同位体地球化学に向けて
- ・断層帯の化学

D 測地学セッション

- ・重力・ジオイド
- ・測地学一般
- ・地殻変動
- ・合成開口レーダー

E 地球電磁気学セッション

- ・太陽圏・惑星間空間
- ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
- ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
- ・地磁気・古地磁気
- ・磁気圏 - 電離圏結合
- ・宇宙天気
- ・電離圏・熱圏
- ・大気圏・熱圏下部
- ・磁気圏構造とダイナミクス
- ・太陽地球系科学の将来に向けて - プロジェクト間の連携
- ・Effects of thunderstorm activities on the upper atmosphere

F 大気・海洋学セッション

- ・大気化学
- ・成層圏過程とその気候影響の新展開

G 地質学セッション

- ・地域地質と構造発達史
- ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報

- ・放射性廃棄物処分と地球科学
- ・変形岩・変成岩とテクトニクス
- ・地球年代学・年代層序学
- ・西太平洋のガスハイドレートとメタン湧水
- ・地球掘削科学
- ・地殻流体ダイナミクス

H 水文・陸水・地下水学セッション

- ・水循環・水環境
- ・同位体水文学 2008
- ・都市域の地下水・環境地質
- ・湖沼における物質循環と堆積物に見られる環境変遷

I 地球内部科学セッション

- ・地球構成物質のレオロジーと物質移動
- ・地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用
- ・地球深部スラブ

K 岩石・鉱物学セッション

- ・オフィオライトと海洋リソスフェア
- ・岩石・鉱物・資源
- ・鉱物の物理・化学
- ・中性子散乱による地球惑星科学の新展開

L 地球環境・気候変動学セッション

- ・古気候・古海洋変動
- ・海と陸の気候 - 過去から現代までの変動解明へのアプローチ
- ・北極域の科学
- ・地球温暖化防止のためのCO₂貯留等
- ・北東ユーラシアの炭素・水循環におけるカラマツ林の役割
- ・低緯度域の気候変動と間接指標の開発
- ・ヒマラヤ・チベットの上昇とアジアモンスーンの変動

M 地球惑星圏学セッション

- ・惑星大気圏・電磁圏

O 計測・探査技術セッション

- ・物理探査のフロンティア
- ・地下水と物理探査
- ・石油開発/地盤工学における地下の定量モデル化と岩石物理の役割
- ・空中からの地球計測とモニタリング

P 惑星科学セッション

- ・惑星科学
- ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
- ・火星
- ・太陽系小天体の科学
- ・月
- ・極限環境生物学を用いた宇宙生物学的研究

Q 第四紀学セッション

- ・第四紀
- ・沖積層研究の新展開

R 鉱床・資源地質学セッション

- ・資源地質学の新展開：レアメタル・レアアース資源を中心として
- ・東部南海トラフのメタンハイドレートと資源開発

S 地震学セッション

- ・活断層と古地震
- ・地震発生の物理・震源過程
- ・地震活動
- ・地震観測・処理システム
- ・地震予知
- ・強震動・地震災害
- ・地殻構造
- ・津波
- ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化
- ・火山活動や沈み込み過程に伴う低周波振動現象

- ・長周期地震動
- ・地震波伝播：理論と応用

T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクスセッション

- ・テクトニクス
- ・地震学と構造地質学における応力逆解析手法とその活用
- ・連動型巨大地震
- ・プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解

V 火山学セッション

- ・活動的火山
- ・火山・火成活動とマグマ
- ・火山の熱水系
- ・火成活動研究への新アプローチ：理工学連携と新手法
- ・カルデラ生成場のテクトニクスと噴火準備過程

W 雪氷学セッション

- ・雪氷学
- ・雪氷圏と気候
- ・コア研究が拓く地球環境変動史

X 地理学セッション

- ・人間環境と災害リスク
- ・GIS (地理情報システム)

Y 防災・応用地球科学セッション

- ・地質ハザード・地質環境問題

Z その他セッション

- ・地形
- ・環境リモートセンシング
- ・大気電気一般
- ・生態工学的手法による閉鎖系とエネルギー・物質循環の研究

J 分野横断型セッション

- ・地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象
- ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
- ・地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ

- ・情報地球惑星科学
- ・地球惑星システム科学
- ・巨大地震発生帯の科学
- ・海洋底地球科学
- ・地球惑星科学における地図・空間表現
- ・陸域の生物地球化学
- ・地球科学史・地球科学論
- ・21世紀は温暖化なのか、寒冷化なのか？
- ・地球情報の標準と管理
- ・活断層と地震災害軽減
- ・サンゴ礁：生命・地球・人の接点
- ・小型科学衛星による宇宙科学の進展間
- ・遠洋域の進化
- ・南極から探る地球環境変動
- ・陸域・海洋相互作用 - 物質循環と生態系との関係 -
- ・I*Y (IGY+50) プロジェクトについて
- ・古い北西太平洋プレートで展開する新しい地球科学
- ・逆問題解析の新展開～データからダイナミクスに迫る
- ・水惑星の起源・進化・多様性
- ・デジタルアースと地球惑星科学
- ・関東アスペリティ・プロジェクト：掘削とモニタリングに向けて
- ・モンスーンアジア水文気候研究計画 (MAHASRI) での周辺分野連携
- ・地球惑星科学に貢献する地質年代学
- ・地質媒体における流体移動、物質移行及び環境評価

学会設立 50 周年記念国際シンポジウム

「アジア・西太平洋の第四紀：環境変化と人類」

日本第四紀学会 50 周年記念行事の一環として、国際シンポジウム「アジア・西太平洋の第四紀：環境変化と人類: Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific」が 2007 年 11 月 19 日(月)から 11 月 22 日(木)にかけて、(独)産業技術総合研究所(つくば市)で開催されました。東アジアを中心に海外 15ヶ国から 35 名に参加して頂き、合計 143 名の登録参加者がありました。昨年は地質調査所設立 125 周年記念ということもあり、本会合は日本第四紀学会と(独)産業技術総合研究所の共催となりました。また、国際第四紀学連合(INQUA)に設置されている 4 委員会と日本学術会議からの後援と国際惑星地球年(IYPE)国内委員会からの協賛を得て実施されました。

シンポジウムは、基調講演と 6 つのセッションで構成されていました。まず、20 日午前には、開会にあたり佃 栄吉地質調査総合センター代表、日本学術会議連携会員・INQUA 副会長の奥村晃史教授(広島大学)から参加者への歓迎の挨拶が述べられた後、日本第四紀学会の町田 洋会長、中国の第四紀研究委員会の LIU Jiaqi 委員長、韓国の第四紀研究委員会の PARK Yong Anh 委員長、台湾からの代表者の CHEN Yue-Gau 国立台湾大学教授から、各国の第四紀学会また第四紀研究の活動報告が行われました。基調講演としては、20 日午前 Wang 教授(中国同済大学)と町田 洋会長による講演が、22 日午後には Lowe 教授(ワイカト大学/ニュージーランド)と van Kolschoten 教授(ライデン大学/オランダ)によるプレナリー講演が行われました。

6 つのセッションについては、「西太平洋とその縁海の古海洋研究: Paleooceanography in the western Pacific and marginal seas」, 「ジャワ島における初期人類の編年と地質環境: Geological context and chronology of early hominids in Java」, 「アジア・太平洋地

域の沿岸環境変化と人間活動: Coastal environmental changes and human activities in the Asia-Pacific region」, 「酸素同位体ステージ 3 と 2 における東北アジアの環境変動と人類の居住: Environmental changes and human occupation in north and east Asia during OIS 3 and OIS 2」, 「アジアにおける第四紀地殻変動 - 地形発達と人間活動への影響 - : Enormous tectonic events in Asia - their effects on landforms and human activity -」, 「アジア・太平洋地域の中・下部更新統境界: The lower-middle Pleistocene boundary in the Asian/Pacific region」の各テーマについて、半日ずつの口頭発表(36 件)と開催期間を通じてのポスター発表(61 件)が行なわれました。

21 日の晩のバンケットでは、常陸太鼓の演奏が行なわれ、その迫力に参加者全員が聴き入ってしまいました(写真)。演奏に使われた太鼓を触らせて頂き、各国の人が思い思いのリズムを打ち鳴らす様子からも今回のシンポジウム開催が第四紀研究の国際交流に貢献できたのではないかと感じました。50 周年に合わせて計画が進められた INQUA 招致が叶わなかったために実現した国際シンポジウムでしたが、結果としてアジアの第四紀研究の交流を深める良い機会を得られたものと思います。(吾妻 崇)



バンケットにおける常陸太鼓の迫力溢れる演奏
(宍倉正展撮影)

アジア第四紀研究会議 (AsQUA) の設立について

2007 年 11 月に行なわれた国際シンポジウムの一つの目的として、アジアにおける第四紀研究の推進がありました。これに関し、11 月 21 日のシンポジウム昼休みにアジアからの各国を代表する参加者、第四紀学会関係、各コンピーナーを招いての昼食会が開かれ、その席で、アジアにおいて定期的開催する第四紀研究に関する国際集会(アジア第四紀研究会議: Asian Conference on Quaternary Research: 略称 AsQUA)を持つことが合意されました。第 1 回会合は 2009 年に中国で開催されます。アジアにおける第四紀研究発展の新しい展開に向けて、会員のみならず皆様からのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

日本第四紀学会2007年度第3回幹事 会議事録

日時：2007年11月3日（土）10:00-15:00
場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館3階
310教室
出席：町田会長、水野幹事長、佐藤、岡崎、三
浦、吾妻

1. 活動報告

(1) 庶務

論文賞選考委員・学会賞選考委員の選出：規定に則り、12月初旬までに会長から候補者10名を推薦して頂き、1月中旬迄に評議員による選挙によって委員候補を選出する。選考委員に編集委員を含めるかどうかについては前幹事に確認しておく。

広島大学図書館リポジトリからの論文掲載許可依頼：J-stageと同様に、発行から1年経過した論文についてウェブ上での公開を認める。

研究委員会：提案内容を審査する体制を作るべき。成果をミニシンポで発表することや大会シンポジウムのテーマにすることも検討。

(2) 会計

会費振込滞納への対応：2回目の振込依頼を送付。

(3) 編集

編集状況：46巻6号初校が終了。2006年2月のシンポジウム特集で受理済みは1編のみ。

執筆要領改訂：タイトルの大文字使用方法や引用文献表記方法に関する変更案を、次回幹事会で承審議し、間に合えば47巻1号に掲載する予定。

編集規定の改訂：査読者選考方法の明示化を中心に検討中。

(4) 渉外

地球惑星科学連合評議会：三浦幹事が出席する予定。

連合プログラム委員：三浦幹事・鈴木幹事が担当。3名体制が認められるのであれば奥村評議員にも継続を依頼。

セッション提案：PAGES対応を考慮したセッション統合に関して提言。関連セッションを続けて行なうなどプログラム編集の工夫を提言する。

国際惑星地球年対応委員会：斎藤文紀前幹事長から三浦幹事に委員交代。

(5) 行事

2008年大会：案内文を第四紀通信12月号に掲載する予定。

巡検：今後検討を重ね、コースと日程を確定させる。

シンポジウム：内容については講師が確定後

に公表する。

発表予稿の著作権問題：転載許可および著作権等譲渡を含めた発表申込案内文案について検討した。

科研費申請：過去3年間の実績確認を中川さんに依頼。会計監査体制資料について確認する。

(6) 広報

第四紀通信の配布：14巻5号の編集を完了し、印刷後に会員に郵送した。

神戸大会緊急セッション要旨のHP掲載：水野幹事長・鈴木幹事・越後広報委員・糸田広報委員と共同で、著作権等委譲承認書の受領、要旨の受付、査読（主に著作権関係等）査読意見の著者への通知、修正稿の受付、ホームページへの掲載(pdfファイル)を行った。11月1日現在、合計11編のうち著者から掲載のあった6編を掲載済。

ホームページ管理：2007年大会緊急セッション講演要旨の公開(10/16)学会誌46巻5号の目次を掲載(10/24)IYPE学生コンテスト募集記事の掲載(10/24)50周年国際シンポジウムのプログラム掲載(10/26)。

メーリングリスト管理：学会MLに各種情報を投稿した(10月以降、全7件)幹事会MLの登録者を現幹事会メンバーおよび奥村評議員へ変更した。学会MLへの新規登録・変更希望および苦情対応の処理を行った。

学会誌目次ファイル：創文社印刷から電子ファイルを送ってもらうよう依頼する。

(7) 企画

シンポジウム：評議員会と同じ会場(収容人数：250人)を使用する予定。シンポジウムのタイトルは「考古遺跡から何がわかるか：Geoarcheology」とし、旧石器時代(北海道、武蔵野)と弥生時代(大阪)に関する実際の調査例を講師に紹介してもらう。

非会員講演者には謝金を支出。会場アルバイト(6000円/人)を依頼する予定。評議員会が長引く可能性があることを考慮し、開始時間は13:30とする。参加自由(参加費無料)。

発表内容を特集号として出版することを検討。宣伝用ポスターを評議員会案内発送迄(12月中旬)までに作成する。

(8) 学術会議

会員推薦：幹事会から、小池裕子・奥村晃史両評議員を推薦した。通信記事を奥村会員に依頼。

(9) INQUA 執行委員会

日本での執行委員会開催：2008年3月末から4月初めに実施する予定。予算措置が施せるかどうか。

2. 審議事項

(1) 知的財産権の検討

知的財産等検討委員会からの回答文および諮問文案をもとに検討した。詳細については次回幹事会で再度検討することとした。

以上

日本第四紀学会2007年度第4回幹事会議事録

日時：2007年12月1日(土) 13:30-17:00
 場所：日本大学100周年記念館2階会議室4
 出席者：町田、遠藤、水野、鈴木、岡崎、三浦、吾

妻、中川(事務局)

議事：前回議事録を確認した後、各議題について以下のとおり、審議ならびに報告を行った。1) 前回幹事会以降の活動として、転載許可の承認、ホームページ更新、会誌編集、冬のシンポジウムの準備状況、外部会合の出席、評議員会準備についてそれぞれ報告を受けた。2) 2007年神戸大会の会計報告を受けて適切に運用されたことを確認した。3) 2008年度大会のうち、特に巡検の準備状況について確認した。4) 知的財産権等検討委員会の答申を踏まえた会則等改正の方向性と検討スケジュールについて議論した。

日本堆積学会事務局移転(お知らせ)

関係機関・学協会 各位

平成19年12月21日

日頃より日本堆積学会の活動にご支援、ご協力を賜り、御礼申し上げます。平成20年1月1日より、日本堆積学会では次期体制へ切り替わります。それに伴い、事務局は東京大学理学系研究科内より、大阪教育大学地質学研究室へと移動しますので、お知らせ致します。なお事務局メールアドレスおよびホームページURLは現在のものがそのまま利用できますので、是非ご活用ください。今後とも、本会へのご支援をよろしくお願い致します。

日本堆積学会事務局 (平成20年1月1日に移転)
 (旧)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻内

(新)

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
 大阪教育大学地質学研究室 廣木義久気付
 TEL: 072-978-3386、FAX: 072-978-3366(事務)

事務局メールアドレス：office(atmark)sediment.jp (変更なし)

学会ホームページ：http://sediment.jp/ (変更なし)

日本堆積学会	会長	松本 良
	事務局長	白井 正明

第四紀学会主催シンポジウム

「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」特集出版のお知らせ

2007年2月3日に行われました第四紀学会主催シンポジウム「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」での講演内容を中心にまとめた特集が、産総研地質調査総合センターが編集する商業誌「地質ニュース」2007年12月号（第640号）に掲載されました。

このシンポジウムは、現在がこれまでになかった激しい自然破壊の時代であることを認識し、私たちが自然と持続的に付き合っていくために、どのようなことを考え行動すべきかを、いくつかの分野・立場の異なる専門家と一緒にになって議論する機会を作ろうという意図で企画されました。広く一般の方々にも読んでいただきたいと思い、「地質ニュース」に特集を組んだ次第です。

目次は次のとおりです。本文で約50ページに及んでいます。

<表紙> クジラ化石発掘観察会風景（大木淳一・岡崎浩子）

<口絵1> 市民に人気の地質・地形（小泉武栄）

<口絵2> 文化財としての日本の天然記念物（桂 雄三）

「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」特集にあたって（水野清秀・町田 洋・久保純子・遠藤邦彦）

- ・地学野外教育の推進とフィールドの保全（小泉武栄）
- ・高等学校における地学野外学習の現状と問題点（田村糸子）
- ・フィールドの活用と保全における博物館の役割（岡崎浩子・松島義章）
- ・天然記念物指定の意味（桂 雄三）
- ・考古遺跡の保存と活用 - 東京近郊・野川流域の場合 - （安藤政雄・野口 淳）
- ・地質遺産の活用と保全 - 日本にジオパークを設立しよう - （渡辺真人）
- ・谷戸の景観を守る環境保全活動の事例（中塚隆雄）

地質ニュース購読希望者は、下記まで申し込んでください。

株式会社 実業公報社出版部

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-7-8

TEL: 03-3265-0951、FAX: 03-3265-0952

URL: <http://www.jitsugyo-koho.co.jp>

E-mail: [j-k\(atmark\)jitsugyo-koho.co.jp](mailto:j-k(atmark)jitsugyo-koho.co.jp)

定価: 各号785円（税込み、送料98円）



第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事: 苅谷愛彦 ([kariya\(atmark\)isc.senshu-u.ac.jp](mailto:kariya(atmark)isc.senshu-u.ac.jp)) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 苅谷愛彦

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 電話: 044-911-1014 Fax: 044-900-7814

広報委員: 越後智雄・糸田千鶴 編集書記: 岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階

E-mail: [daiyonki\(atmark\)shunkosha.com](mailto:daiyonki(atmark)shunkosha.com)

電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176